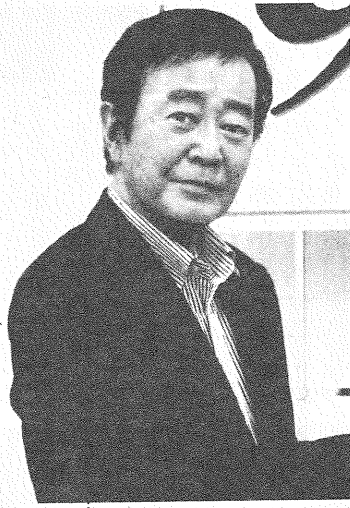


ドラマ+タリフジ

台本離さなかつた役者魂

俳優・渡瀬恒彦さんの死去を受けて、兄の渡哲也さん(75)が発表したコメントです。親が子を思う悲しみを「逆縁」という言い方をしますが、血を分けた兄弟姉妹であっ

③ 渡瀬恒彦



渡瀬恒彦さん

役者魂を貫いた渡瀬恒彦さん

「当初よりステージIV、余命1年の告知を受けておりましたので、今日の日が来る覚悟はしておりましたものの、弟を失いました。この喪失感は何とも言葉になりません。幼少期より今日に至るまでの二人の生い立ちや同じ俳優として過ごした日々が思い返され、その情景が立ち切れず、辛さが募るばかりです」

初期には自覚症状が見られない胆のうがんですが、進行すると、みぞおちや右脇腹の痛

「ついでに、渡哲也さんのボスであった石原裕次郎さんの死を、兄の慎太郎氏はかつて『弟』という作品にしました。あのクールな慎太郎氏でも、この小説だけはどこかセンチメンタルで、涙なしでは読めませんでした。」

関係もいまだに不正確です。初期には自覚症状が見られない胆のうがんですが、進行すると、みぞおちや右脇腹の痛



ニッポン ドクター和の 臨終区巻

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。著「痛くない死に方」は、いずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

渡瀬さんの胆のうがんは、発見時には最も進行した段階の「ステージIV」だったとのこと。胆のうがんの場合、初期の自覚症状がほとんどないため、残念ながらこういうケースは多いのです。胆のうは、肝臓の下にある長さ10センチ、幅4センチ程度の洋ナシのような形をした臓器。肝臓で作られた胆汁という消化液をいったん、ためておく役割を担っています。私たちが食事をするたびに、胆のうは胆汁を排出して消化を助けます。また、胆汁の通り道にできるがんは、胆管がんと呼ばれます。胆のうの病気という胆石をすぐに思い浮かべますが、その因果

み、黄疸(おうだん)、皮膚のかゆみ、白色便、尿が茶色くなるなどの症状が出てきます。膵臓(すいぞう)がんと並んで治りにくいがんであり、手術ができない場合の1年生存率は20%台と大変低いのです。渡瀬さんに右のような症状が出ていたかは不明ですが、体調不良で病院に行き、ステージIVと発覚したのは2015年秋のことです。余命1年の宣告を受けました。5カ月間の休養を取り、抗がん剤や放射線の治療を行います。そして2016年春に、人気ドラマシリーズ『警視庁捜査一課9係』の主演で復帰。病気のことば周囲に一切伝えず、治療を受けながら撮影を続けたそうです。

「撮影現場が僕に力をくれませ」と発言していましたが、夏ごろより容体が悪化。再び休養に入り、今年春から始まる新シリーズに備えて体調を調整中と伝えられていましたが、3月に敗血症を併発。14日に帰らぬ人となりました。72歳でした。病室には、いつでも撮影に臨めるようにドラマの台本が持ち込まれていたそうです。最後まで色あせなかつた役者魂に頭が下がります。